

文教大学情報学部 社会調査 研究報告

インターネットで二極分化するテレビ視聴

2011年2月

情報学部広報学科

山内 裕太

目次

第1章 調査研究の概要

1.1	調査の目的と背景	2
1.2	調査に関する動向	3
1.3	調査研究の方法	5
1.4	成果の概要	6
(1)	主な成果	
(2)	その他の成果	

第2章 調査研究の成果

2.1	調査回答の概要	9
2.2	テレビとインターネットの利用選好	9
2.3	利用形態に見る利用選好	12
2.4	メディア選好と効用	13
2.5	情報欲求	14
2.6	生活に対する意識	16

第3章 まとめと今後の課題

参考文献

単純集計表

第1章 調査研究の概要

1.1 調査の目的と背景

ここ何年の間で若者は、活字離れが進んでいるという話を耳にした。確かに私自身、本はあまり読まないし、課題のレポートもワープロが多い。何か調べたいことがあればパソコンを起動させる。周りの人はどうなのだろうと思い、大学生の情報利用やメディアの接触について興味を持ち、調べてみると、新聞や雑誌、ラジオを抑え、テレビの利用がかなりの割合を占めていた。しかし最近テレビを見ないという大学生が増えていると感じ、更に調べるとテレビの代わりにインターネットの利用が増え、インターネットによってテレビ視聴が二極分化してきているということが分かった。そこで私はテレビ視聴がなぜ二極分化してきているのか、二極分化ということは全ての人がインターネットの影響を受けるわけではないのではと感じた。これを踏まえ、大学生の利用の多いテレビ視聴と最近利用が増加しているインターネット利用の実態について調査することで、なぜインターネットによってテレビ視聴が二極分化してきているのかについて検証していきたい。それにはまず、テレビのような従来のメディアよりインターネットを多く利用するようになったのには理由があると考えた。それはインターネットを利用することで、何か効用があるからであり、それによって利用の選好がされると考えられる。効用におけるメディアの選好について検証していきたい。さらにメディアだけではなく個人的な性格、傾向といったパーソナリティの部分で二極分化、メディア利用選好の規定に影響はあるのか、どのように影響があるのかについても、検証する中で取り入れていきたい。

尚、ここでのネット利用とは、パソコン利用のネットに注目し、携帯電話でのネット利用は含めない。なぜなら身近な人に調査した結果、携帯電話でのネット利用は、パソコンと比較すると利用時間が短く、目的に幅が無かった。携帯電話での利用はパソコンより影響が少ないと見なすためである。

1.2 調査に関する動向

まず、インターネットの実態を概観すると、NHK 放送文化研究所の 2008 年の年報によると、2001 年あたりから 10 代後半から 20 代の人々の間で、利用内容に細かな差があった。生活時間の面で、利用時間量が休日より平日の方が多く、仕事で利用する時間の差によるものであった。利用者の特徴として、テレビを見ながらインターネットをする並行利用が見られるようになった。この時点で、インターネットがこれまでのアナログメディアの前提では想定できない発展・普及を遂げていることが分かってきた。

2002 年の調査では、利用時間によるグループ分けを行って実施している。そこから、インターネットへの関与の段階が進めば、単なる情報検索ツールから新しい「娯楽装置」に昇格するのではないかという仮説が考えられた。また、ブロードバンドによる常時接続環境が整ってきたことが「ながら」利用を促進させ、テレビと同時に利用することは今後ますます一般化すると予測している。その後、2002 年から 2005 年のインターネットや接続媒体の変化が起き、まず、ブロードバンドの契約世帯が大幅に増加した。

2004 年には、従来のアナログ電話回線接続と置き換わる形となった。また 2004 年頃から、光ファイバーケーブルの本格普及が始まり、ブロードバンド間の再置換も起き始めた。これまで利用出来なかったサービスが容易に利用できるようになり、インターネット利用領域の幅が拡大することになった。次に、ウェブ上のコミュニケーションツールが増加した。2004 年は、ウェブ上に新しいコミュニケーションサービスが展開された年である。個人がホームページ作成より簡単な技術で日記などをつけることができるブログは、新しいコミュニケーションの仕組みが人気となり、社会的なブームとなった。また、友人を紹介しあってウェブ上で個人間の交流を促進させるソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)も、GREE、mixi といったサイトがスタートして以来、若者を中心に加入者が増加した。こうした進化したコミュニケーションツールの登場は、ウェブ上で個人がつながる仕組みをより一般的なものにし、従来のインターネットの利用形態を大きく変える可能性をもたらした。こうした新しい行動の誕生、行動が日常化することは、テレビなど従来型メディアの利用意識や利用スタイル、そして生活行動を根本的に変えるような影響を及ぼしていくのではないかと考えられた。

一方、テレビの実態を概観すると、NHK 放送文化研究所の 2008 年の年報によると、NHK が 2002 年に実施した「テレビ 50 年調査」では、何となくテレビをつけっぱなしにして見る「環境性」、番組の見たい部分だけを意識を注いで見る「断片性」、番組の演出

や裏側に関心を持って番組を深読みするような「熟練性」など5つの現代的テレビ視聴の特徴を提示した。また、インターネットの利用時間でグループ分けをした2002年の調査では、テレビ行動の変化を表す言葉として、「テレビの存在はBGM化」や「情報源としての重要性が減った気がする」といった発言が見られた。

一方で、テレビの視聴時間そのものは依然として長時間で推移しているが、これは社会の高齢化に伴って、とても長い時間テレビを見ている60代以上の人々が国民全体に占める割合が増加していることによることも明らかになっている。

また、NHK放送文化研究所の「放送研究と調査」2009.10版によると、視聴の「量」を見ると、NHKが毎年行っている全国個人視聴率調査の2009年の結果では、20代男性の1日当たりのテレビ視聴時間は1時間44分と2時間を切り、国民全体のそれより1時間59分少なく、20代女性より39分少ない。この調査を現在の方法で始めた1989年以降で最も低い数値となっている。20代男性が同年代の女性に比べ視聴時間が少なく、13～19歳男女と並んで最も視聴時間が少ない年層であるという傾向は、ここ10年ほどは一貫している。

次に視聴の「質」の面では、テレビの関与度が以前の20代より「希薄」になりつつあることが指摘されている。近年、男女共に20代でテレビを「なんとなく見る」人が他の年代に比べ増加し、特に男性では、テレビを「思わず夢中になっていること」が「ほとんどない」という人や「見る時刻が決まっていない」人が増加していることを示している。

このように、インターネットとテレビの実態について概観してきた。インターネットは、わずか10年で日常行動へと昇格していったが、それでもインターネットというメディアについて一定の結論が出たわけではなく、今後も人々の生活を変えるような変化によって、行動が変わってくるかもしれない。また、テレビもデジタル化の時代に入り、テレビ自体の機能の拡大さや多チャンネル化がいよいよ一般化することが視聴行動に与える影響はかなり大きいと考えられる。しかし今インターネットによってテレビ視聴が二極分化してきていることは、とても興味深いものである。今後変化が進むと考えられる2つの媒体についての調査は、重要なものであると考えられ、現時点での2つの媒体の実態を把握することも重要となると考えられる。そのためには、メディアの利用に積極的な10代後半から20代の人々に調査することで、かなりの実態の把握が可能であると考えられる。これが、先述した私の関心の上で今回の調査を実施することにつながっている。

1.3 調査研究の方法

(1) 進捗経緯

5月～7月：文献による情報収集、調査テーマ討論

8月：調査コンセプト、調査票作成

9月：調査テーマについての討論、仮説、調査票の検討

10月：調査実施、単純集計報告

11月：分析・集計報告

12月：分析・研究報告書作成

(2) 調査の概要

(a) 調査の意図

- ・テレビとネットの選好要因とその利用行動・効用は何か
- ・テレビよりネットの利用が多い理由とは何か
- ・ネットよりテレビの利用が多い、または同程度の利用をする理由とは何か
- ・メディアだけでなく個人的な性格、傾向といったパーソナリティの部分で利用行動の規定に影響はあるのか

(b) 調査対象者 文教大学湘南キャンパス情報学部広報学科学生(1～4年生)

(c) 調査方法 授業時間内に配布・回収

(d) 主な質問項目

- ・ネット利用時間(/日)
- ・動画共有サービスの利用
- ・ネットの利用方法、閲覧傾向、サービスの利用、利用目的について
- ・ネットを利用することによる効用(機能面、文化・交流面)
- ・テレビ視聴態度、専念視聴時間(/日)、視聴方法について
- ・利用の重要度
(ネットとテレビで、どちらを優先して利用するか、自分の情報とするか)
- ・情報欲求について
- ・生活に関する意識、趣味
- ・性別、学年、住まい、アルバイトの有無

(e) 発送数・回収数

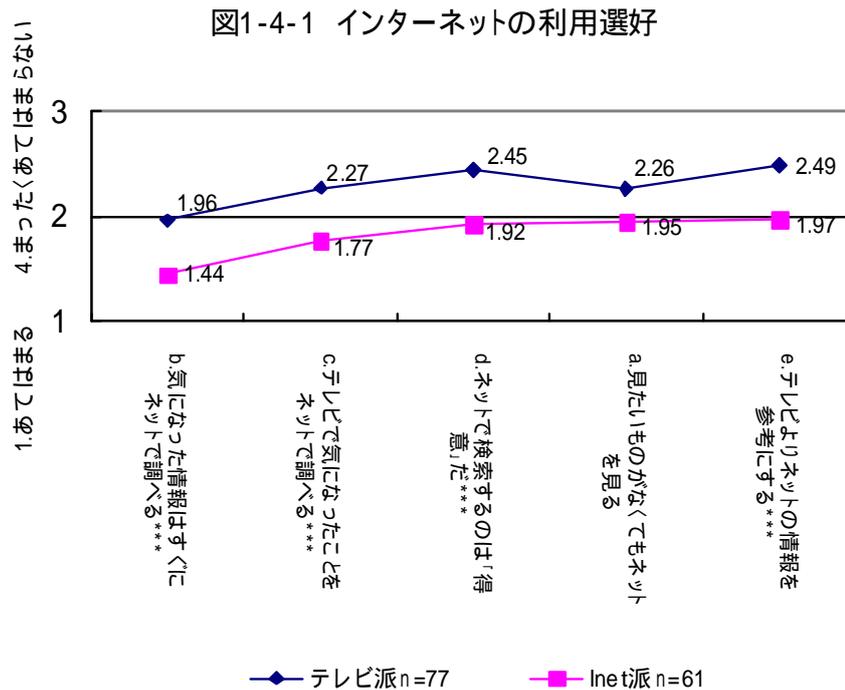
社会心理学概論□ 配布数 158

1.4 成果の概要

(1) 主な成果

(a) インターネットの利用選好

Inet 派はインターネット依存が大きいことを検証するため、インターネットの利用形態について平均値で比較を行った。その結果を図1-4-1に示す。

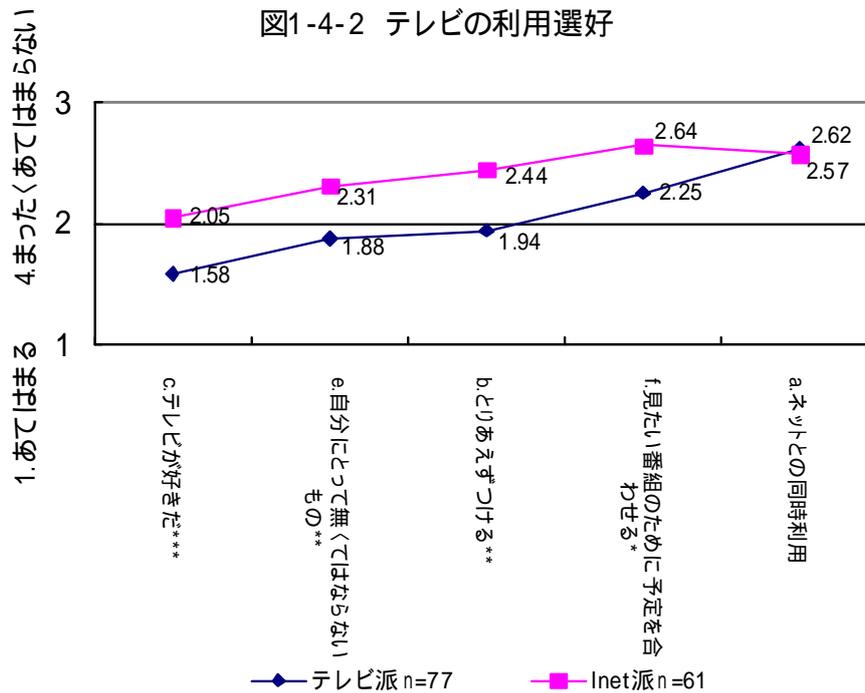


各項目で、Inet 派はTV 派よりもインターネットを利用選好していることが顕著に現れている。4項目で同程度の差が見られ、Inet 派はTV 派より有意にインターネットを利用選好していることが分かる。

(b) テレビの利用選好

次にTV 派はテレビ依存が大きいことを検証するため、テレビの利用形態について平均値で比較を行った。その結果を図1-4-2に示す。

図1-4-2 テレビの利用選好



4つの項目でTV派はInet派よりもテレビを利用選好していることが顕著に現れており、TV派はInet派より有意にテレビを利用選好していることが分かる。

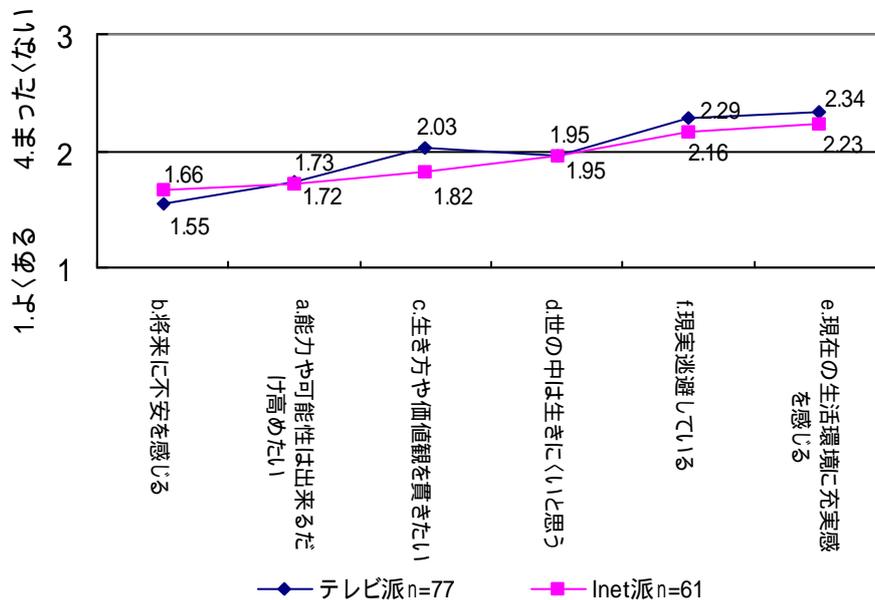
「a.ネットとの同時利用」は両グループともに差が見られず、両グループとも、それなりに同時利用することが分かる。

(c) 生活に対する意識

メディアの選好要因には、個人的な性格、傾向といったパーソナリティの部分でも規定、影響があるのではないかと考え、生活に対する意識と利用形態について見ていく。

生活に対する意識について、両グループ毎の平均値で比較を行った。その結果を図1-4-3に示す。

図1-4-3 生活に対する意識



両グループともに、生活の意識に関してはそれなりに感じている部分があるということが分かる。しかし、「c.生き方や価値観を貫きたい」では、両グループに差が見られ、Inet派は、TV派よりも生き方や価値観を貫きたいと思っている傾向にあることが分かる。

(2) その他の成果

- ・テレビの利用方法での「見たい番組のために予定を合わせるか」という設問を、テレビの環境視聴の有無で見ると、環境視聴するグループは「ややあてはまる」が約34%と最も多かったのに対して、しないグループは「あまりあてはまらない」が約36%と最も多かった。見たい番組のために予定を合わせていながら環境視聴している傾向にあり、特に予定を合わせないが、見る番組は専念視聴するという傾向にあることが分かった。

[謝辞]

本研究においては、調査の実施に際して多くの学生諸氏から回答をいただいた。この調査協力に対しては心から御礼を申し上げる次第である。調査票を作成するまでの過程では、授業のメンバーをはじめとして、多くの方から示唆を頂いた。また研究の実施全般にたいしては、指導教授のハッ橋先生から様々な示唆を頂いた。これらの皆さんに対して、改めて謝意を表します。

第2章 調査研究の成果

2.1 調査回答者の概要

調査は文教大学湘南校舎の社会心理学概論 の講義に出席していた学生1～4年生の協力を得て行った。

なお回答標本は無作為抽出で作成してはいないために、母集団から見て標本に偏りを生じる可能性がある。そこで回答者の分布を、表2-1-1と表2-1-2で確認しておく。

表2-1-1の学年別の分布では、1年87.3%(138人)、2年8.9%(14人)、3年2.5%(4人)、4年1.3%(2人)となっている。講義が1年次の必修授業ということもあり、1年生の割合がかなりを占めている。

また表2-1-2の性別の分布では、男子34.2%(54人)、女子65.8%(104人)となっている。情報学部全体の割合は男子が多いが、調査では女子は多くを占めている。

これらの偏りは、回答者全体の分布にはそれなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である。しかしクロス集計やグループの平均などの層化を行った集計では、影響は限定されると考えられる。

表2-1-1 回答者と母集団の比較

	1年	2年	3年	4年	計
回答者	87.3 (138)	8.9 (14)	2.5 (4)	1.3 (2)	100.0 (158)
情報学部 学生	26.3 (549)	24.2 (506)	23.5 (490)	25.9 (541)	100.0 (2086)

(注) 母集団は情報学部2010.09末時点である。

表2-1-2 回答者と母集団の比較

	男子	女子	計
回答者	34.2 (54)	65.8 (104)	100.0 (158)
情報学部 学生	66.3 (1383)	33.7 (703)	100.0 (2086)

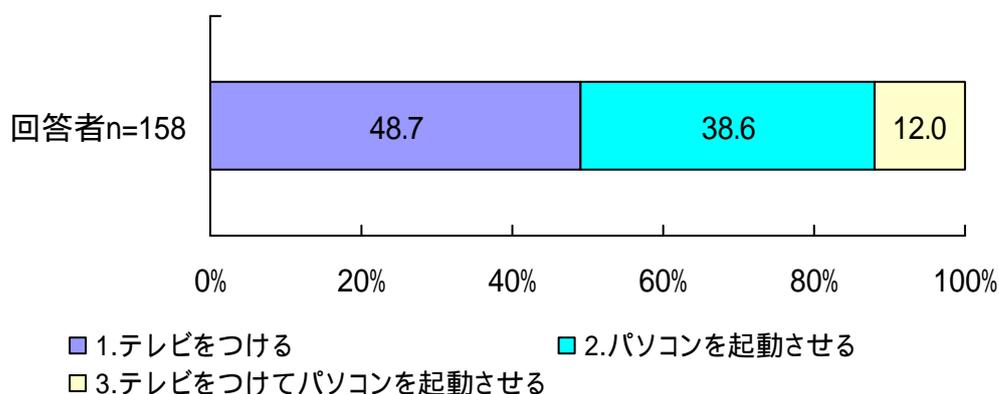
(注) 母集団は情報学部2010.09末時点である。

2.2 テレビとインターネットの利用選好

(1) テレビとインターネットの優先度

質問の中で「あなたは何かについてニュースを見たいとします。」と仮定して、「テレビとインターネットでは、まずどちらを利用しますか。」と、メディアの利用優先について聞いた設問の回答を見ていく。結果を図2-2-1に示す。

図2-2-1 テレビとインターネットの優先度



最も多かったのが、「1.テレビをつける」で約49%であった。次いで多かったのが、「2.パソコンを起動させる」で約39%であった。

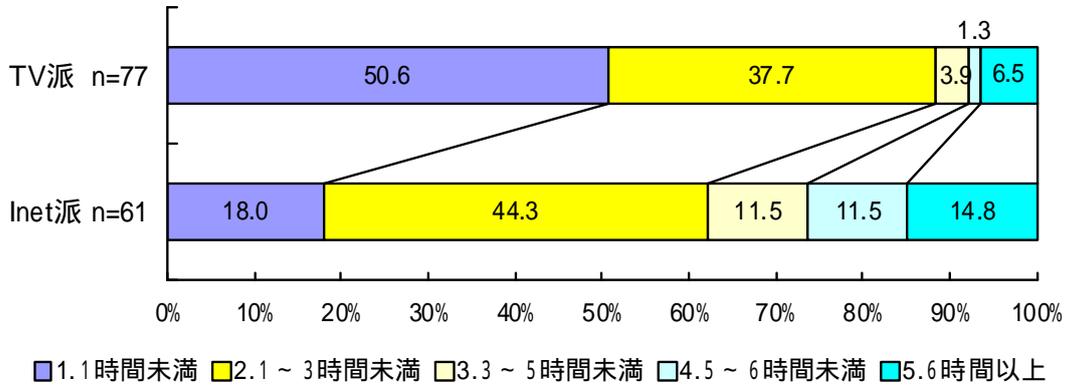
何か情報を得たいときに使うメディアというのが、その人の選好しているメディアとして考え、まず「テレビをつける」グループをTV派とし、まず「パソコンを起動させる」グループをInet派として2つのグループに分け、この2つのグループでこれからの研究を見ていく。

まずインターネットの利用時間、テレビの専念視聴時間について見ていく。

(2) インターネット利用時間

2つのグループ毎に1日のインターネット利用時間を集計した結果を図2-2-2に示す。

図2-2-2 利用形態とインターネット利用時間(1日)(2乗:***)



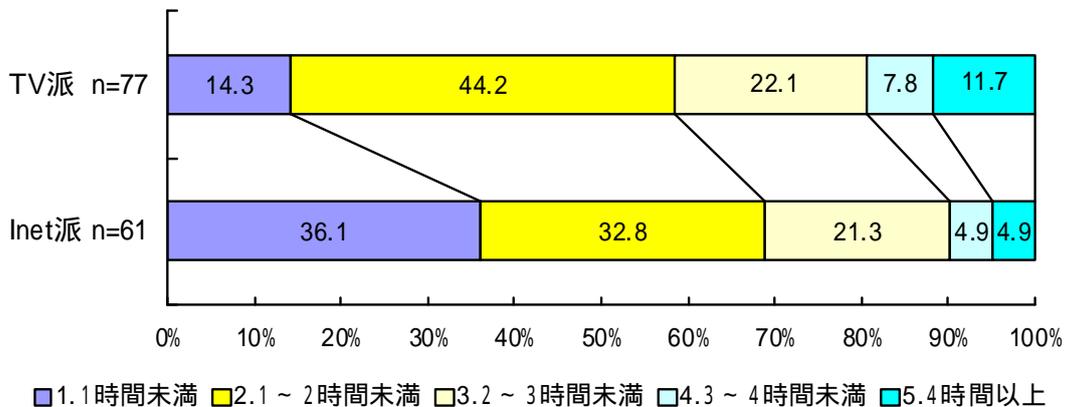
TV 派では、「1.1時間未満」が約51%と最も多いのに対して、Inet 派では、「2.1～3時間未満」が約44%と最も多かった。まずパソコンを起動させることを優先させる Inet 派がインターネットを長く利用する傾向が有意にある。選択肢の中間値と比率を用いてそれぞれの平均値を算出した。TV 派は1.69時間であったのに対して、Inet 派は約1.8倍の3.10時間であった。このことから Inet 派の方が明らかに長く利用することが分かる。

(3) テレビ専念視聴時間

次に2つのグループと1日のテレビ専念視聴時間をクロス集計した。

結果を図2-2-3に示す。

図2-2-3 利用形態とテレビ専念視聴時間(1日)(2乗:*)



TV 派では、「2.1～2時間未満」が約44%で最も多いのに対して、Inet 派では、「1.1時間未満」が約36%と最も多かった。まずテレビをつけることを優先させる TV 派が有

意に長く利用する傾向にある。

両グループの平均値を算出した。TV 派は 2.15 であったのに対して、Inet 派は 1.62 であった。このことから TV 派の方が長く利用することが分かる。

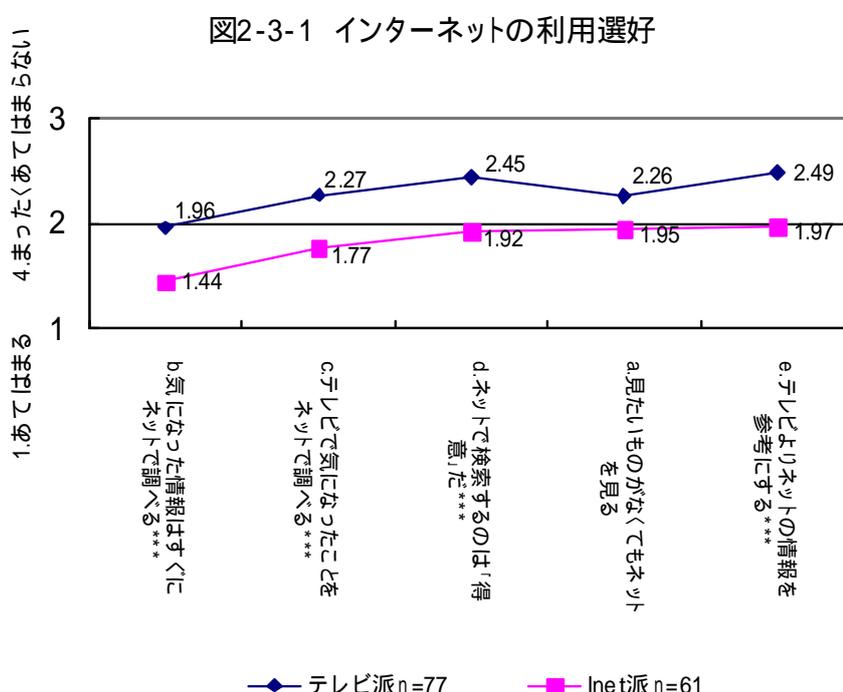
ここではニュースに対するメディアの選好性から回答者を TV 派と Inet 派に分けてメディア利用時間を見てきたが、ニュースという情報の普遍性と利用時間との差を考えると、ことさらにニュースに限定した選好性でなく、情報全般における選好性で見なす可能性を示している。

そこで、メディアの選好をもたらす要因が何かをさらに探すこととする。まずいくつかの効用について見ていく。

2.3 利用形態に見る利用選好

(1) インターネット

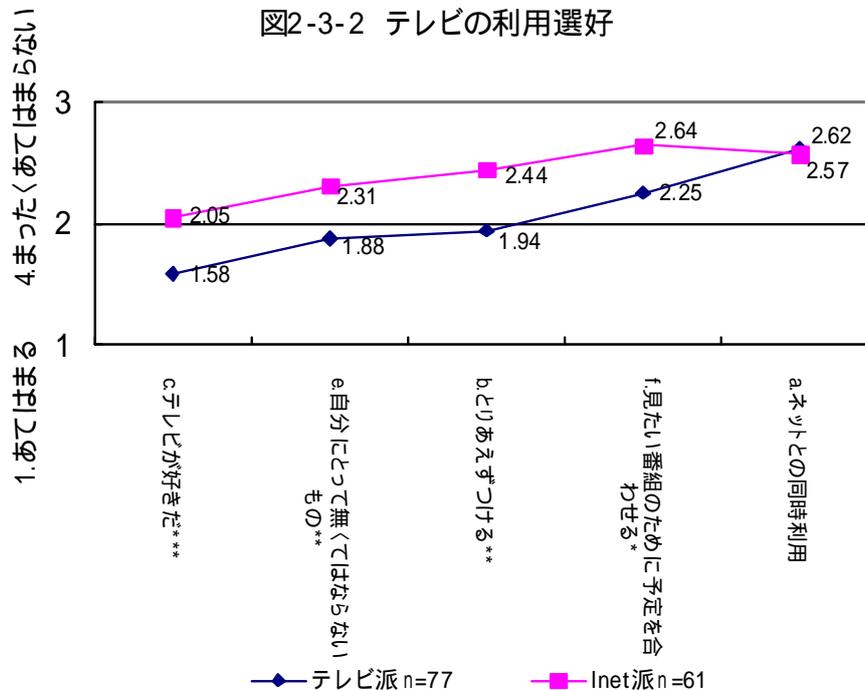
Inet 派はインターネット依存が大きいことを検証するため、インターネットの利用形態について平均値で比較を行った。その結果を図 2 - 3 - 1 に示す。



各項目で、Inet 派は TV 派よりもインターネットを利用選好していることが顕著に現れている。4項目で同程度の差が見られ、Inet 派は TV 派より有意にインターネットを利用選好していることが分かる。

(2) テレビ

次に TV 派はテレビ依存が大きいことを検証するため、テレビの利用形態について平均値で比較を行った。その結果を図 2 - 3 - 2 に示す。



4つの項目でTV派はInet派よりもテレビを利用選好していることが顕著に現れており、TV派はInet派より有意にテレビを利用選好していることが分かる。

「a. ネットとの同時利用」は両グループともに差が見られず、両グループとも、それなりに同時利用することが分かる。

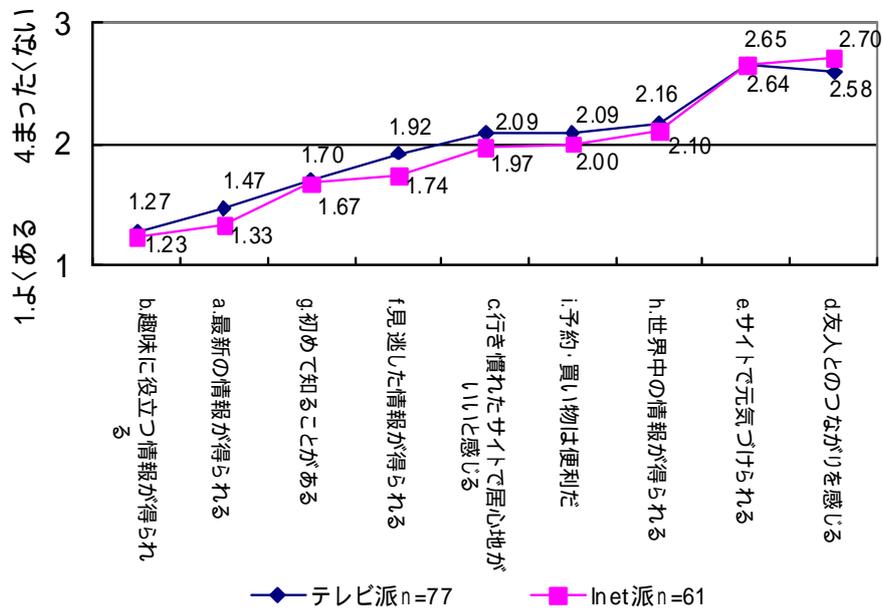
よって、2.2で2つのグループはニュースという情報の普遍性と利用時間との差から、ことさらにニュースに限定した選好性でなく、情報全般における選好性で見なす可能性を示しているとしたが、2つの結果から、両グループ共に、それぞれのメディアの依存が大きいことが分かり、情報全般における選好性で見なすことが出来る。

次に、メディアの選好と効用について見ていく。

2.4 メディアの選好と効用

インターネットを利用するの効用について、両グループ毎の平均値で比較を行った。その結果を図 2 - 4 - 1 に示す。

図2-4-1 メディアの選好と効用



全ての項目で、Inet 派の方がTV 派よりも、インターネットの利用に効用を感じている。両グループともに差が僅かな中で「a.最新の情報が得られる」「f.見逃した情報が得られる」という情報を追求するとされる項目については、両グループである程度の差が見られ、情報の追求の度合いが強いことが Inet 派であると考えられる。

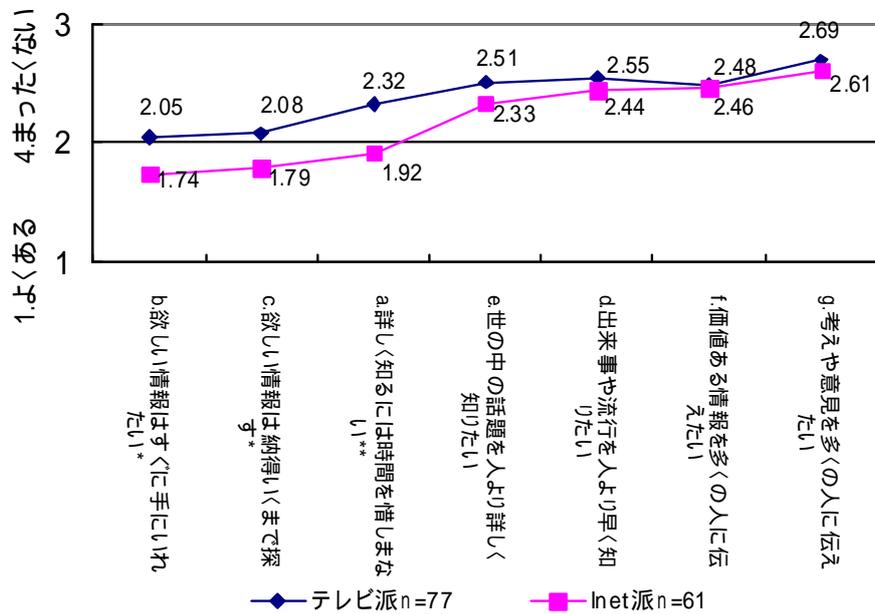
情報を追求する上で、追求の度合いによって Inet 派とTV 派を分けていると考えられる。次に、情報の欲求について見ていく。

2.5 情報欲求

メディアの選好要因には、情報に対する欲求が関係し、選好を規定するのではないかと考え、情報に対する欲求についての質問をした。

情報に対する欲求について、両グループ毎の平均値で比較を行った。その結果を図 2 - 5 - 1 に示す。

図2-5-1 情報欲求



全ての項目で、Inet 派は TV 派よりも情報に対する欲求が強いことが分かる。「b. 欲しい情報はすぐに手に入れたい」「c. 欲しい情報は納得いくまで探す」「a. 詳しく知るには時間を惜しまない」の項目に関しては、Inet 派の方が TV 派よりも有意に情報に対する欲求が強いことが分かる。

次に因子分析を使い、傾向を簡略化することとした。その結果を表に示す。

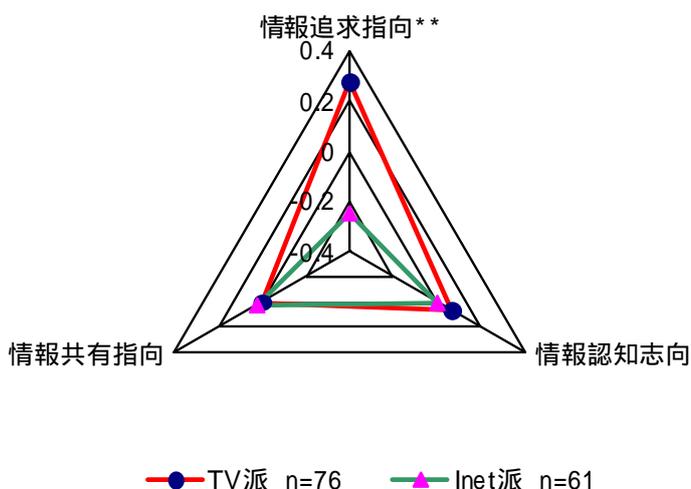
表 情報欲求の因子分析結果

因子 (平方和、寄与率)	対応する変数 (係数の大きい順)
第 1 因子 (2.17、31.0%) 情報追求指向	17a. 詳しく知るには時間を惜しまない 17c. 欲しい情報は納得いくまで探す 17b. 欲しい情報はすぐに手に入れたい
第 2 因子 (1.68、24.0%) 情報共有指向	17g. 考えや意見を多くの人に伝えたい 17f. 価値ある情報を多くの人に伝えたい
第 3 因子 (1.60、22.9%) 情報認知志向	17d. 出来事や流行を人より早く知りたい 17e. 世の中の話題を人より詳しく知りたい

(注) 平方和と寄与率はバリマックス回転後の値である。寄与率の合計は 78.0% である。

次にこれらの因子が、Inet 派と TV 派でどの様に異なる傾向を持っているかを見るために、因子スコアの平均値を調べた。その結果を図 2 - 5 - 2 に示す。3 つの因子軸は内側へ行くほどに、その因子の傾向が強まることを示しており、因子名の右についている*の印は、平均値の分離の有意性を示している。また各因子軸の 0 は全体の平均の位置を示している。

図2-5-2 利用形態グループ別の因子得点



この図から、第 1 因子情報追求指向には、Inet 派と TV 派の間で有意差があり、Inet 派では明らかにその傾向が強い。また、第 2 因子情報共有指向、第 3 因子情報認知指向は、両方ともに 0 の近くにあり、両グループ間には注目する差はない。

2 つの図からも、情報を追求する度合いによって Inet 派と TV 派を分けており、情報の追求指向と Inet 派とは密接に関係していることが分かる。また、情報共有指向と情報認知指向の因子で差が見られなかったのは、調査対象者が大学生という若年層であり、両グループともそれなりに情報の共有、認知を行っているからであると考えられる。

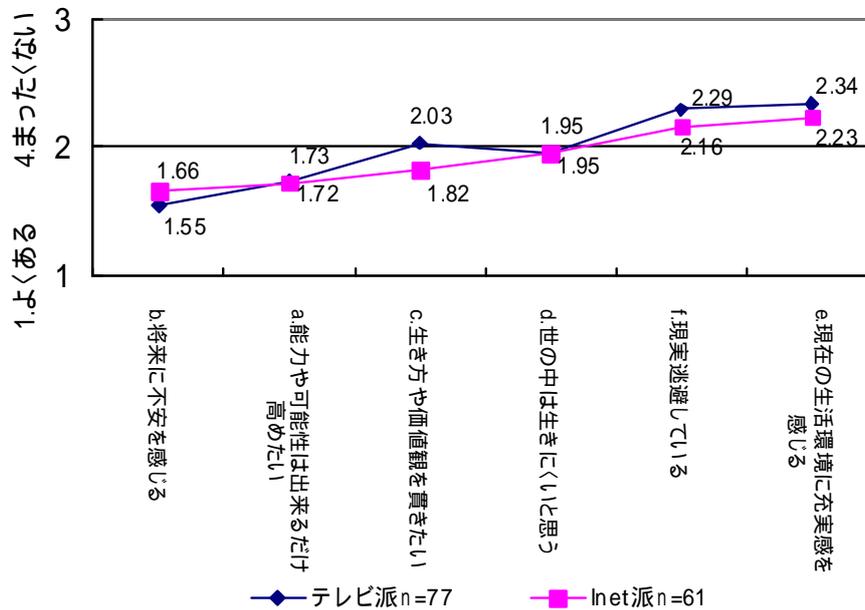
次に利用形態と生活に対する意識について見ていく。

2.6 生活に対する意識

メディアの選好要因には、個人的な性格、傾向といったパーソナリティの部分でも規定、影響があるのではないかと考え、生活に対する意識と利用形態について見ていく。

生活に対する意識について、両グループ毎の平均値で比較を行った。その結果を図 2 - 6 - 1 に示す。

図2-6-1 生活に対する意識



両グループともに、生活の意識に関してはそれなりに感じている部分があるということが分かる。しかし、「c.生き方や価値観を貫きたい」では、両グループに差が見られ、Inet派は、TV派よりも生き方や価値観を貫きたいと思っている傾向にあることが分かる。

それまでの情報を追求する指向に加えて、自分の生き方や価値観を貫きたいと思う傾向が、Inet派を規定する要因の一つであると考えられる。

第3章 まとめと今後の課題

インターネットによるテレビ視聴の二極分化について見てきた。メディアの優先度、利用時間で Inet 派、TV 派とグループ分けしたが、テレビからインターネットに移行した理由がいくつか見られた。

1つ目は、インターネット、テレビの各メディアに対する依存が大きいことである。インターネットの利用では「テレビよりネットの情報を参考にする」「テレビで気になったことをネットで調べる」「気になった情報はすぐにネットで調べる」などの項目で有意差が見られ、Inet 派はインターネットを利用選好していた。一方テレビの利用では「テレビが好きだ」「自分にとって無くてはならないもの」などの項目で有意差が見られ、TV 派はテレビを利用選好していた。

2つ目は、情報の追求指向の差である。インターネット、テレビの各メディアの利用の効用について「最新の情報が得られる」「見逃した情報が得られる」という項目で差が見られた。情報を追求する上で、Inet 派は追求の度合いが強いことが見られた。それは情報の欲求においても、「詳しく知るには時間を惜しまない」「欲しい情報は納得いくまで探す」「欲しい情報はすぐに手に入れたい」と情報追求指向の項目で有意差が見られ、このことから Inet 派は情報の追求の度合いが強いことが見られた。

3つ目は、自分の生き方や価値観を貫きたいと感じていることである。生活に対する意識では、両グループとも、それなりに生活の意識に関して感じている傾向にある中で、「生き方や価値観を貫きたい」という項目で差が見られ、Inet 派が TV 派よりもその傾向にあった。

このことから、テレビというメディアがある中にインターネットが登場し、更なる情報化が実現した。それは社会の多様化を促し、メディアの選択性をもたらした。選択できるようになるということは、個別な欲求の実現につながり、インターネットという選択できるメディアは人間の欲求に合っていると考えられる。また社会の多様性を実現するインターネットという技術の普及は、最大公約数的なマスメディアからの離反の傾向を示していると言える。情報を追求したい、自分の生き方や価値観を貫きたいと思っている人が、自ら選択でき、個別の欲求が実現できるメディアであるインターネットを選好するようになり、テレビとの二極分化が生じていると考えられる。

今後の課題としては、メディアの優先度、利用時間から Inet 派、TV 派とグループ分けをしたが、性差や住居形態などの生活環境の面でグループ分けし、メディアにおける選好

が今回の調査とはどう変わるのか調査したい。また、今回の調査は1年生が大部分を占めていたが、3、4年生など就職活動を始めてからのメディアの利用の選好に違いが現れるのか検証したい。そのために、3、4年生にも調査を行い、就職活動に関する質問を設定したい。

参考文献

Web サイト

<http://www.soumu.go.jp/iicp/chousakenkyu/data/research/survey/telecom/2009/2009-01.pdf>

・総務省 情報通信政策研究所 IICP

「インターネット利用の決定要因と利用実態に関する調査研究」

<http://www.soumu.go.jp/iicp/chousakenkyu/data/research/survey/telecom/2007/2007-2-01.pdf>

・総務省 情報通信政策研究所 IICP

「メディア融合時代におけるインターネット利用者のメディア利用行動に関する調査研究」

～生活行動への影響と複数メディアの相互利用状況の分析～

<http://www.mediacom.keio.ac.jp/publication/pdf2009/shiki.pdf>

・慶応義塾大学 メディア・コミュニケーション研究所紀要

「若者のテレビ視聴とメディア並行利用行動」

<http://www.bunkyo.ac.jp/~yatsuha/kenkyu/kene2/kene2idx.html>

・ハッ橋武明「インターネットの利用者タイプと利用満足」

社会情報学研究第8巻第2号(2004.3) pp.65-78

<http://www.bunkyo.ac.jp/~yatsuha/kenkyu/kene1/kene1idx.html>

・ハッ橋武明「インターネットの普及と利用」

情報研究(文教大学情報学部紀要)第30号(2004.1) pp.213-226

<http://www.bunkyo.ac.jp/~yatsuha/kenkyu/kend3/kend3idx.html>

・ハッ橋武明「3.3 メディアの移行とウェブの効用」

平成11年度～14年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))研究成果報告書『地域情報化と社会生活システムの変容に関する実証的研究』2003.3(平成15年3月)(研究代表者 川本勝 駒沢大学文学部教授) 第3章第3節 pp.56-75

書籍

- ・「デジタルとメディア 普及と利用行動の現在値」
 - 「日本人とメディア」総合調査研究から - NHK 放送文化研究所 年報 2008
- ・「われわれはどのようにインターネットをとらえてきたか」
 - 文化調査でたどるこの10年 - NHK 放送文化研究所 年報 2008
- ・『20代男性・「不安」と「情報過多」の中で』
 - □生活意識とメディア接触に見える「断層」 -
NHK 放送文化研究所「放送研究と調査」2009年10月号
 - □テレビ視聴に見る「断層」のありよう -
NHK 放送文化研究所「放送研究と調査」2009年11月号

テレビ視聴とインターネット利用に関する調査

情報学部広報学科「社会調査」 山内裕太

「社会調査」の授業のための調査です。無記名ですので率直にお答えください。

ここで言うインターネット利用とは、パソコンでのネット利用に限ります。

問1 あなたは1日で何時間インターネットを利用しますか。(1つに) n = 158

1. 1時間未満	34.2	2. 1～3時間未満	39.9	3. 3～5時間未満	8.2
4. 5～6時間未満	7.0	5. 6時間以上	10.8		

問2 あなたは1日で何時間YouTubeのような動画共有サイトを利用しますか。(1つに) n = 158

1. 30分未満	25.3	2. 30分～1時間未満	29.1	3. 1～2時間未満	26.6
4. 2～3時間未満	7.6	5. 3時間以上	11.4		

問3 あなたのインターネットの利用方法についての質問です。

下記のa～fの項目ごとにあてはまり具合を答えてください。(それぞれ1つに) n = 158

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
a. 見たい、調べたいことが無くても、インターネットを見ている	38.0	28.5	23.4	10.1
b. 気になった情報などは、すぐにインターネットで調べる	45.6	39.9	12.0	2.5
c. テレビを見て気になったことをネットで見たり、調べたりする	33.5	35.4	25.9	5.1
d. インターネットで情報を検索するのは「得意」な方だ	19.0	43.0	36.7	1.3
e. テレビよりもインターネットの情報を参考にすることが多い	23.4	36.7	35.4	4.4
f. ブログや掲示板に書き込みをすることがある	22.2	24.7	24.7	28.5

問4 あなたは定期的に訪れるサイトはいくつありますか。(1つに) n = 158

1. 0個	1.9	2. 1～3個	45.6	3. 4～6個	35.4
4. 7～9個	6.3	5. 10個以上	10.8		

問5 あなたはインターネットでどの分野の情報について見たり、調べたりしていますか。

(上位3つに) n = 158

1. ニュース	43.0	2. 政治経済	6.3	3. 音楽	67.7	4. スポーツ	27.2
5. エンタメ	57.6	6. ショッピング	46.2	7. ゲーム	23.4	8. その他	26.6
無回答	1.9						

問6 あなたはインターネットのサービスではどのように利用しますか。(上位3つに) n = 158

1. 興味関心のあるサイトの閲覧	85.4	2. Google などでの検索	57.6
3. ブログの閲覧	34.8	4. ブログでの書き込み	11.4
5. (mixi などの) SNS サイトの閲覧	54.4	6. SNS サイトの書き込み	9.5
7. ショッピング	27.8	8. オークション	5.1
9. ゲーム	6.3	10. その他	7.6

問7 あなたはインターネットの利用では、勉強と趣味ではどちら多いですか。(1つに) n = 158

1. ほとんど勉強	1.9	2. 勉強が多い	2.5	3. 同程度	12.7
4. 趣味が多い	44.9	5. ほとんど趣味	38.0		

問8 あなたはインターネットを利用して、どのように感じていますか。

下記の a~g の項目ごとにあてはまり具合を教えてください。(それぞれ1つに) n = 158

	よくある	ややある	あまりない	まったくない	無回答
a. 最新の情報が得られる	64.6	34.2	1.3	0	0
b. 趣味に役立つ情報が得られる	75.3	24.7	0	0	0
c. 行き慣れたサイトでは居心地がいいと感じる	33.5	37.3	24.7	4.4	0
d. サイトで友人とのつながりを感じる	15.2	32.3	29.7	22.8	0
e. サイトを見ることで元気づけられる	12.7	29.1	44.3	13.9	0
f. サイトで見逃した情報が得られる	38.0	44.9	14.6	2.5	0
g. サイトを見て初めて知ることがある	43.7	46.2	10.1	0	0
h. サイトで世界中の情報が得られる	28.5	35.4	31.0	4.4	0.6
i. サイトでの予約・買い物は便利だ	35.4	36.1	17.7	10.8	0

問9 あなたは家にいる時、見たい番組が無くてもテレビをつけることはありますか。(1つに)

n = 158

1. よくある	46.8	2. ややある	27.2	3. あまりない	13.3	4. まったくない	12.0
無回答	0.6						

問10 あなたは1日で何時間テレビを専念視聴(ながら視聴でない)で見ますか。(1つに) n = 158

1. 1時間未満	23.4	2. 1~2時間未満	38.0	3. 2~3時間未満	23.4
4. 3~4時間未満	6.3	5. 4時間以上	8.9		

問11 あなたはどのようなテレビ番組を専念視聴(ながら視聴でない)で見ますか。(上位3つに)

n = 158

1. ドラマ	56.3	2. ニュース・情報	40.5	3. バラエティ	68.4	4. スポーツ	24.7
5. アニメ	35.4	6. 教養・ドキュメンタリー	6.3	7. 映画	35.4	8. 音楽	29.1
9. 生活・暮らし	1.3	10. その他	0	無回答	2.5		

問12 テレビの利用方法についての質問です。

下記の a~f の項目ごとにあてはまり具合を教えてください。(それぞれ1つに) n = 158

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
a. インターネットとテレビを同時に利用していることが多い	19.0	32.3	29.1	19.6
b. テレビはとりあえずつけていることが多い	35.4	31.0	17.7	15.8
c. 自分はテレビが好きだ	43.0	37.3	16.5	3.2
d. テレビは気になった時にだけ目を向ける	27.8	43.7	21.5	7.0
e. 自分にとってテレビは無くてもならないものだ	36.1	29.1	26.6	8.2
f. 見たい番組のために、スケジュールを合わせることもある	22.8	29.1	31.0	17.1

問13 あなたは何か新しい情報を聞いたとします。

テレビとインターネットでは、どちらの情報を重要視しますか。(1つに) n = 158

1. テレビの情報	32.9	2. インターネットの情報	25.3	3. 両方の情報	41.1	無回答	0.6
-----------	------	---------------	------	----------	------	-----	-----

問14 あなたは何かについてニュースを見たいとします。

テレビとインターネットでは、まずどちらを利用しますか。(1つに) n = 158

1. テレビをつける	48.7	2. パソコンを起動させる	38.6
3. テレビをつけてパソコンを起動させる	12.0	無回答	0.6

問15 あなたは普段からテレビをつけたままにしていることはありますか。(1つに) n = 158

1. よくある	25.9	2. ややある	31.6	3. あまりない	33.5	4. まったくない	8.9
---------	------	---------	------	----------	------	-----------	-----

問16 あなたは普段からパソコンをつけたままにしていることはありますか。(1つに) n = 158

1. よくある	22.2	2. ややある	20.9	3. あまりない	28.5	4. まったくない	28.5
---------	------	---------	------	----------	------	-----------	------

問17 あなたの情報に関する欲求についての質問です。

下記の a~g の項目ごとにあてはまり具合を教えてください。(それぞれ1つに) n = 158

	よくある	ややある	あまりない	まったくない	無回答
a. 詳しく知るには時間を惜しまない	22.8	44.9	30.4	1.9	0
b. 欲しい情報はすぐにでも手に入れたい	39.2	37.3	20.9	2.5	0
c. 欲しい情報は納得いくまで探す	31.0	46.8	19.6	1.9	0.6
d. 出来事や流行を人より早く知りたい	12.0	36.1	44.9	7.0	0
e. 世の中の話題を人より詳しく知りたい	14.6	37.3	42.4	5.7	0
f. 価値ある情報を多くの人に伝えたい	14.6	32.3	46.2	7.0	0
g. 自分の考えや意見を多くの人に伝えたい	8.9	30.4	49.4	11.4	0

問18 あなたの生活に対する意識に関する質問です。

下記の a~f の項目ごとにあてはまり具合を教えてください。(それぞれ1つに) n = 158

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
a. 自分の能力や可能性はできるだけ高めていきたい	38.6	48.7	12.7	0
b. 自分の将来に不安を感じることがある	51.9	39.2	8.2	0.6
c. 人に合わせるより、自分の生き方や価値観を貫きたい方だ	31.6	46.8	19.0	2.5
d. この世の中は生きにくいと思うことがある	29.7	47.5	21.5	1.3
e. 現在の生活環境に充実感を感じている	15.2	49.4	29.1	6.3
f. 今の自分は現実逃避している気がする	20.9	44.3	27.8	7.0

問19 あなたの趣味はなんですか。(あてはまるものすべてに) n = 158

1. 映画鑑賞(テレビ・ビデオ・DVDは除く)	48.1	2. 音楽鑑賞	70.3
3. 楽器の演奏	23.4	4. ゲーム	33.5
5. カラオケ	47.5	6. スポーツ	32.9
7. スポーツ観覧(テレビ・ビデオ・DVDは除く)	24.1	8. 旅行	13.9
9. テレビ・ビデオ・DVD鑑賞	63.9	10. アウトドア(山や海)	9.5
11. 読書	38.6	12. その他	15.2

F1. あなたの性別 n = 158

1. 男性	34.2	2. 女性	65.8
-------	------	-------	------

F2. あなたの学年 n = 158

1. 1年	87.3	2. 2年	8.9	3. 3年	2.5	4. 4年	1.3
-------	------	-------	-----	-------	-----	-------	-----

F3. あなたの住まい n = 158

1. 実家暮らし	48.7	2. 一人暮らし	51.3
----------	------	----------	------

F4. あなたは現在アルバイトをしていますか。 n = 158

1. している	65.8	2. していない	34.2
---------	------	----------	------

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。